

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和7年度第3回入間市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和7年12月24日(水) 午前10時00分 開会 ・ 午前10時55分 閉会
開 催 場 所	入間市役所 B 棟5階 全員協議会室
議 長 氏 名	小林 昌幸
出席委員(者)氏名	小林 昌幸、浜野 良一、有賀 健高、岡崎 洋志、小野 吉雄、 熊木 真知子、新倉 順、平岡 武、渡邊 定夫
欠席委員(者)氏名	垣本 美紗、河村 佑毅、河野 真夢、齋藤 勝久、齋藤 定利、 吉岡 和弘
説明者の職氏名	環境経済部 副参事(脱炭素・資源循環担当) 増田 暁伸
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	【審議会】 1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 諮問 入間市一般廃棄物処理基本計画の改定について 5 議題 入間市一般廃棄物処理基本計画(改定版)(案)について 6 その他 7 閉会
非 公 開 理 由	なし
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	資料1 入間市一般廃棄物処理基本計画改定のポイント 資料2 入間市一般廃棄物処理基本計画(原案)
事務局職員職氏名	【環境経済部】 部長 鹿山 泰隆、次長 吉野 博明 参事兼エコ・クリーン政策課長 石見 彩 参事兼総合クリーンセンター所長 石井 治彦 副参事(脱炭素・資源循環担当) 増田 暁伸 【エコ・クリーン政策課】 主幹 榎本 寛、副主幹 西村 卓也、主任 神田 啓佑
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

【審議会】

○議題

(1) 入間市一般廃棄物処理基本計画(改定版)(案)について

入間市一般廃棄物処理基本計画改定のポイントについて事務局から説明を行い、審議委員による意見交換を行った。

○その他

令和8年1月14日～2月13日にパブリックコメントを実施すること、および、次回の審議会の開催予定時期(2月下旬から3月上旬)について、事務局から連絡した。

以上

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
司会(榎本)	(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する。)
小林会長	1 開 会
市長	2 会長あいさつ
市長	3 市長あいさつ
市長	4 諮問
	入間市一般廃棄物処理基本計画の改定について
	5 議題
事務局(増田)	(資料1「入間市一般廃棄物処理基本計画改定のポイント」に沿って説明)
小林会長	それでは、ただいま事務局から説明がありました内容についてご意見やご質問をいただきたいと思います。 基本的な内容はこれまでの審議会での説明があったとおりですが、今回は国や県の動向についての説明がありました。こういった部分についてのご意見はございますか。
有賀委員	排出量と焼却量の違いについての説明を冊子に書いておいていただけると良いと思います。
事務局(増田)	排出量や焼却量について、計画(原案)の32ページにおいて国及び県の数値目標の設定に係る記載がありますので、そちらにご指摘いただいた説明を追加するということでしょうか。
有賀委員	今後、市はごみ排出量の数値目標を設定する場合、焼却量を使用しないで排出量にしていくということではないのですか。
事務局(榎本)	今回の国・県の計画においては、焼却量を数値目標としていますが、入間市としては従前の排出量を使用したほうが市民にとって分かりやすいと考えています。
有賀委員	数値目標として、排出量と焼却量を併記することはできないのでしょうか。

発 言 者	発 言 内 容
事務局(榎本)	ご指摘のような考え方も一つあると思いますが、専門的な分析をしたうえで目標値の設定を行う必要があると考えます。そのため、今回は市としての目標値の設定については見送り、今後5年間の課題としたいと考えています。一方で市の焼却量の数値は毎年把握し、国や県の目標値との比較は行っています。
有賀委員	排出量は家庭系ごみだけを対象としたものなののでしょうか。事業系ごみは数値に含まれないのでしょうか。
事務局(榎本)	市の計画で目標としている排出量440gは、家庭系ごみを対象にしています。一方で、1人1日あたりの焼却量580gには、家庭系の可燃ごみ、事業系一般廃棄物の可燃ごみ、粗大ごみを破碎した後の焼却ごみなどが含まれています。このあたりが分かりにくくなっている原因だと思いますので、数値の内訳についての解説を計画に追記させていただきたいと思います。
有賀委員	そのあたりが市民にはわかりづらく、焼却量と言われてもイメージができないと思うので、引き続き排出量を目標値とすることで良いと思います。
有賀委員	資源化率に係る計画について、詳しく説明していただきたいです。
事務局(増田)	ごみの資源化に向けた具体的な取り組みは、計画書41ページに記載しました。リチウムイオン蓄電池や剪定枝の再資源化を推進していきたいと考えていますが、これによってどれくらいごみが減っていくのかという試算はできていません。
有賀委員	おそらく、リチウムイオン蓄電池や剪定枝の再資源化のみでごみを4%減らしていくのは難しいと思うので、他の施策も考えていく必要があると思います。
事務局(増田)	国の計画における目標数値が下方修正されている事情もありますので、少し動向を見させていただきたいと思います。
有賀委員	今回はこの内容で行くということですね。

発 言 者	発 言 内 容
小林会長	都市鉱山として半導体の部品から金を取り出す際に、回路に使われる金の量が少なくなりすぎて資源化できなくなっているという話も聞きます。時代とともに資源の量や採れ方が変化してきていることもあると思います。
新倉委員	計画(原案)の41ページにおいて、ごみの資源化の推進に向けた具体的な取り組みとしてリチウムイオン電池の資源化の記載がありますが、リチウムイオン電池の資源化はどのように行おうと考えていますか。
事務局(増田)	県がリチウムイオン電池の資源化について取り組みを始めたところで、入間市も手を挙げているところです。この取り組みは民間事業者との連携事業となるため、事業の中でできることを実施していきたいと考えています。
小林会長	新しい処理方法を考えているとのことですが、現在回収している分のリチウムイオン電池はどのような方法で処理しているのでしょうか。
事務局(増田)	現在は、北海道で処理しています。もう少し近い場所で資源化ができれば良いと考えています。
新倉委員	今後は実証実験などを検討し、実施していくということでしょうか。
事務局(増田)	そういうことになります。
岡崎委員	資源化を推進するためには、資源化できるものとできないものが混ざったごみから資源を取り出すのではなく、資源化できるものだけを集める必要があると思います。そのために市民に呼びかけていく方策は考えていますか。
事務局(増田)	現在も小型家電などは拠点回収しています。 資源化可能なものは同様に拠点回収したいと考えており、周知を含めて実施していければと考えています。
岡崎委員	拠点回収というと地区センター等に行く必要があると思いますが、高齢社会に

発 言 者	発 言 内 容
	なり拠点に持って行くのも大変だという人が増えています。また、廃食油の回収については知らない人も多いです。拠点まで行くのが面倒だったり、資源の出し方がわからなかったりすると分別はしなくなってしまうので、周知方法や対策を考えた方が良いと思います。
石見参事	リチウムイオン電池については、令和7年度中に全戸配布する令和8年度ごみの分け出し表において強調して記載して周知します。また、剪定枝の資源化についても市民に周知していきます。
岡崎委員	防災ハンドブックも全戸配布しましたが、それでも知らないという人はいます。A4サイズだと新聞と一緒に束ねて捨ててしまうという人もいるらしいので、大きいサイズにするなどして、必ず目にしてもらえるように工夫したら良いと思います。
小林会長	市の職員が資源を回収しに行くというのは難しいので、今後は、特に、空き家の増加や終活によって膨大な量の資源が排出される場合に備えた対策をどうするか考える必要があるということだと思います。
岡崎委員	コンビニとは言いませんが、近くにある人が集まりやすい場所に資源回収の拠点であれば良いと思います。インクカートリッジのように、これまでであった回収場所がなくなる場合も、分別しなくなる要因の一つです。
小林会長	他市も共通の課題だと思いますので、事務局には他市の例を集めていただいて、取り組みについて模索していただきたいと思います。
小林会長	事務局から会議後も意見を受け付けていただける旨のアナウンスがありましたので、お気づきのことがありましたら、事務局にご連絡いただければと思います。 それでは、以上で議事を終了させていただきます。

発 言 者	発 言 内 容
事務局(榎本)	6 その他 (パブリックコメント及び次回の会議の予定について説明)
浜野副会長	7 閉会 (閉会のあいさつ)
議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和 8 年 / 月 26 日 議 長 の 署 名 <u>小林 昌章</u> 議長が指名した者の署名 <u>浜野 良一</u>	